

M9台使用によるふじのわい化栽培

1、背景とねらい

りんごのわい化栽培では台木として、当面M26台を主体に、肥沃土壌ではウイルスフリーM9台も含め奨めてきている。これまでの栽培の結果、M26台使用ふじでは樹勢が強く、高樹高や枝の交差がみられ、園地によっては品質低下や作業性が劣る場合もあり、大規模園地等では、管理上の問題もあり、間伐や低樹高化等の指導をしている。

この対策として、M9台を用いることにより、ふじの適正な樹勢が図られるなど良い成果が得られたので参考に供する。

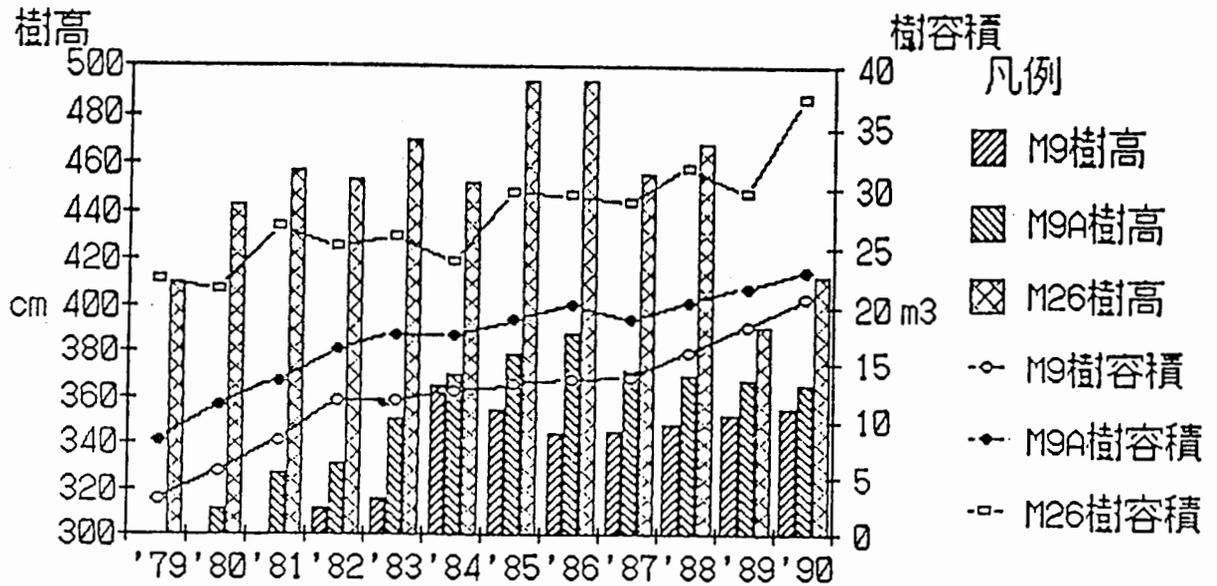
2、技術内容

- 1) ふじの新植に当たっては、樹容積でM26台使用樹の約60%のわい化となるM9台使用樹の導入が望ましい。
- 2) 結実部位を2.0～2.5mを目標とし、支柱は地上部2.5m程度とする。
- 3) 早期に生産量を確保するため、強せん定を避け、誘引を主体とした幼木管理を行う。

3、指導上の留意点

- 1) M9台使用ふじの台木長は、土が落ち着いた時点で20cm程度を確保する。
- 2) M9台使用ふじの植栽距離は、機械の作業性、安全性等も考慮し、樹列間4.5～5m、樹間隔を3m位とする。
- 3) M9台使用ふじは、新梢の発生数が少ないので、必要に応じてBA剤や芽キズ等の処理で、枝の発生を促す。
- 4) M9A及びウイルスフリーM9台使用ふじはM9台使用ふじに比べ、やや大きめとなる。
- 5) その他の栽培方法は、M26台使用ふじに準じ、平成元年度果樹指導要項を参照する。
- 6) 適応地域：県下全域

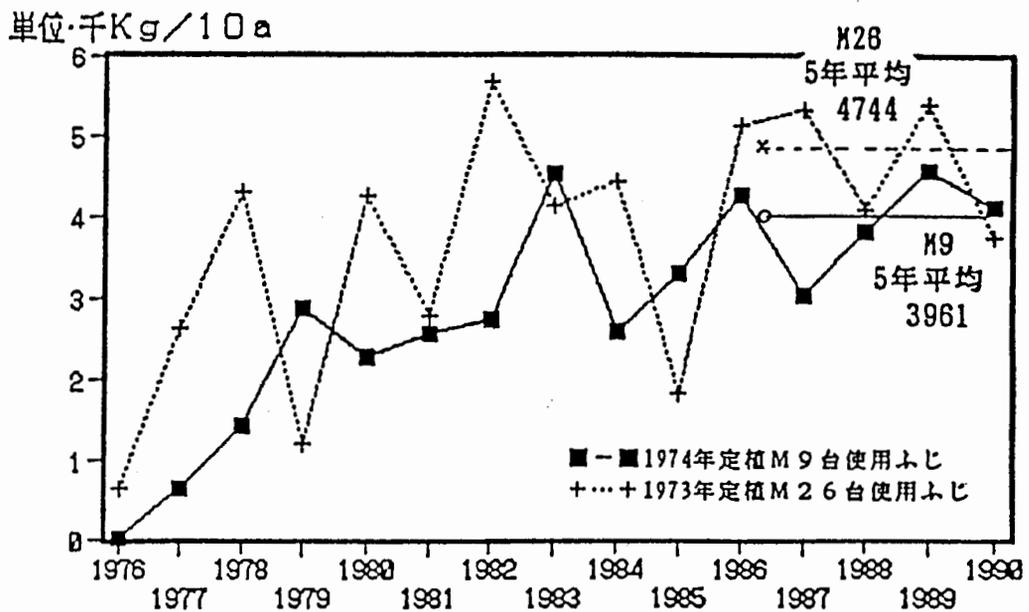
4、試験成績の概要



第1図 M26・M9・M9A台使用ふじの樹高と樹容積

※1、M9・M9A台使用ふじは1976年定植、M26台使用ふじは1973年定植

M9・M9A台使用ふじを比較すると、M9A台はM9台より樹高、樹容積が上回った。



第2図 M26・M9第使用ふじの収量